

「就労支援部会」令和3年度後期活動報告について

1 開催日時等

第38回就労支援部会	令和3年 7月 6日
第39回就労支援部会	令和3年11月10日
第40回就労支援部会	令和4年 3月 8日
企業向け雇用セミナー	令和4年 3月15日

2 部会員

団体等名	氏名
特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨（部会長）
特定非営利活動法人 くるくる	鈴木 佳奈
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	加藤 正昭
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	福島 洋子
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
商工業振興課	平出 達也

3 報告事項

（1）第39回就労支援部会（令和3年11月10日開催）

ア 就労支援連絡会について

令和3年10月7日開催の就労支援連絡会において実施したグループトークの内容等について部会員に報告し、情報共有を行った。

イ 課題解決に向けた方策について

令和3年7月6日開催の第38回修路支援部会に引き続き、昨年度の部会で挙げられた課題について意見交換を行った。

課題1 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進や就労定着支援について

<主な意見>

- ・就労継続支援A型・B型事業所の職員には、一般企業に就職したことがなく、企業への就職のイメージを持ってない人ない人もいるため、A型・B型事業所の両方に対して、企業への就職するために必要な支援方法について学べる場があるとよ

い。

- ・ B型事業所は一般就職を目指すというよりも、そこで長く仕事をするというイメージが強く、親亡き後も利用者本人が安定した生活を送ることができるよう望んでいる人が多い。

課題2 学校卒業後の就労定着支援について

<主な意見>

- ・ 学校卒業後、直接就職して就労定着支援サービスを利用できない人の中には、支援度が高い人もおり、市独自に学校卒業後に直接就職した人を対象とした就労定着支援の制度が作れるとよい。

課題3 ひきこもりを含む若者の就労支援について

<主な意見>

- ・ 子ども若者総合相談は希望者が多い状況であり、勇気を出して相談しようとしても、相談に乗ってもらうまでに長い時間がかかるという理由で相談するのを諦めてしまう人もいる。

課題4 就労だけでなく、生活面でも支援できる相談支援体制の構築に向けた検討について

<主な意見>

- ・ 他市と比較すると、刈谷市は相談支援事業所の数や人員が少ない。

課題5 支援者のサポート力向上について（人材育成）

<主な意見>

- ・ 人材確保のため、障害者福祉サービス職の魅力を発信する事業や人材育成を目的とした研修費を補助する事業が必要ではないか。

ウ 企業向け障害者雇用セミナーについて

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、障害者雇用セミナーを実施することができなかったが、今年度はセミナーを開催すること、開催にあたり愛知県経営者協会に協力を仰ぐことを確認し、セミナーの詳細については、ワーキンググループを設置し、そこで検討を進めることとした。

<ワーキンググループ開催状況>

第1回ワーキンググループ（令和3年12月13日）

- ・ セミナーの開催方法は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式とす

ること、開催日を令和4年3月15日（火）とすることを決定したほか、参加者募集チラシの作成等について検討した。

第2回ワーキンググループ（令和4年 1月18日）

- ・募集チラシの配布方法、新型コロナウイルスの影響を踏まえたセミナー開催可否の判断方法、セミナー開催日までのスケジュール感等について検討した。

第3回ワーキンググループ（令和4年 2月22日）

- ・愛知県経営者協会との打合せ内容の報告、セミナー当日のタイムスケジュールの詳細等について検討した。

（2）第40回就労支援部会（令和4年3月8日開催）

ア 企業向け障害者雇用セミナーについて

企業向け障害者雇用セミナー開催に向けて、最終打合せを実施した。

イ 就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

これまでの部会で抽出された5つの課題を解決するための方策について意見交換を行った。

課題1 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進や就労定着支援について

<主な意見>

- ・就労継続支援B型事業所からでも状況が整えば一般就労は可能。事業所としては、一般就労させるためのサポート体制を整えることが課題である。

課題2 学校卒業後の就労定着支援について

<主な意見>

- ・学校卒業後、直接就職した人を対象とした就労定着支援の制度があり、参考になるのではないか。

課題3 ひきこもりを含む若者の就労支援について

<主な意見>

- ・基幹相談支援センターでは、今現在ひきこもっている人から相談を受けることは少ないが、他機関のひきこもり相談窓口を定期的にご利用することで自信をつけ、基幹相談支援センターでの相談受付につながるケースはある。

課題5 支援者のサポート力向上について（人材育成）

<主な意見>

- ・研修に参加したくても日中の人員体制の都合で参加できないこともある。参加しやすいよう実施時間帯が複数用意されていたり、短い時間で集中して実施するなどの工夫がされるとよい。

(3) 企業向け障害者雇用セミナー（令和4年3月15日開催）

ア 開催場所・開催方法

産業振興センター 604会議室

会場参加及びオンライン参加のハイブリッド形式

イ プログラム

①就労支援サービスについて

内 容：就労移行支援、就労定着支援等のサービスの概要についての説明

説明者：特定非営利活動法人パンドラの会 坂口 伊久磨 氏

②事例発表

内 容：愛知県経営者協会の障害者雇用に関する取組みについての発表

発表者：愛知県経営者協会 関谷 司 氏

③障害者雇用のサポートについて

内 容：障害者を雇用するうえで受けることができるサポート内容についての説明。

説明者：刈谷公共職業安定所 福島 洋子 氏

西三河南部西障害者就業・生活支援センター 加藤 正昭 氏

就労支援センターくるくる 鈴木 佳奈 氏

ウ 参加者数

28団体、50名（会場参加：8団体、18名、オンライン参加：20団体、32名）

<参考>過去に開催した雇用セミナーの参加者数

令和元年度：23団体、30名

平成30年度：15団体、19名

平成29年度：13団体、24名

(4) 令和4年度の就労支援部会について

これまでの部会で抽出された5つの課題のうち、どの課題から優先的に取り組んで

いくのかについて、協議するとともに、部会で検討する課題の内容によって、例えば、就労継続支援A型・B型事業所や一般企業にも参加してもらうことを検討する。

また、セミナーについては、今年度のセミナー参加者から寄せられたアンケートの回答結果を分析し、より一般就労の促進につながる内容や開催方法等について検討する。